

# 故郷でこだわり事業 (ターン&コミュニティビジネス) 報告書(要約)

関東経済産業局では、NPO法人日本NPOセンターと共催で、群馬県、太田市、太田商工会議所、おおたNPOセンターのご協力を得て、平成13年度に群馬県太田市をフィールドに「故郷でこだわり事業」を実施いたしました。

## 1. 故郷でこだわり事業の趣旨

- ・「故郷でこだわり事業」とは、一言でいえば自分の出身地でNPO活動やコミュニティビジネスを起こして、故郷を豊かにすること。現在、日本の各地域で市民がNPOやコミュニティビジネスの手法を用いて、地域を豊かにする事業に取り組み始めている。一方、経済成長期に各地域から就職や勉学を目的として大都会に出てきて、そのまま定着した人たちが、そろそろ人生の第2ステージを迎えようとしている。この人たちは豊富な経験、知識、技術を持っているが、その知恵を発揮してNPOやコミュニティビジネスの手法を使って、故郷を豊かにする事業に参加すれば、地域はもっと良くなる。
- ・このようなターン&コミュニティビジネスの可能性と進め方を探るため、今回群馬県太田市をパイロット事業地区として選定し、日本NPOセンターとの共催で太田市、商工会議所、NPO等と連携して推進検討委員会を発足した。首都圏に住む団塊の世代を中心とするターン人材を募集し、ワークショップを通して、新たな活性化事業のモデルについて検討を行った。

## 2. 「故郷でこだわり事業」推進検討委員会

- ・推進検討委員会(委員長:山岡義典 日本NPOセンター 常務理事)は、関東経済産業局、日本NPOセンター、群馬県、太田市、太田商工会議所、おおたNPOセンター、環境ネット21等で構成され、委員会や準備会を通して、ワークショップの対象者、募集方法、具体的な進め方等について議論した。
- ・参加者の募集方法は、太田高校と太田女子高校の同窓会名簿の中から、昭和35年から昭和45年までの生まれで、現在首都圏在住の方をピックアップ(約1,000名)し、DMを送付した。その結果、50名近い方から何らかの反応を得た。

## 3. ワークショップ

### 【東京ワークショップ】

- ・平成14年1月19日(土)、東京四谷にある主婦会館プラザエフにおいて、第1回ワークショップ(参加者26名)を開催した。
- ・まず、山岡義典委員長(日本NPOセンター常務理事)、下田博次副委員長(群馬大学社会情報学部教授)、加藤敏春委員(関東経済産業局総務企画部長)、六本木信幸委員(環境ネット21理事長)から、「故郷でこだわり事業」についての

考え方や事例についての講義があった。

- ・次いでグループワークに入り、自由な発想で作業を進めてもらうために参加者には、自分の本名を明かさずに、ウソの肩書きと名前（ほら吹き名刺）で自己紹介し、4つのグループに分かれた。まず、「故郷のここが好き」、「故郷のここが嫌い」をテーマに議論したうえで、「故郷の好きなところを活かし、嫌いなところを改善する」ためには、どんな事業を始めるべきかという視点から事業構想を考え、実際に運営することを想定し、運営主体の名称や組織形態、事業名、事業概要をグループごとにまとめ、順次発表を行った。

また、ワークショップ終了後、参加者に対する宿題として、次回のワークショップまでに各グループで適宜相談し、事業構想を企画書として取りまとめ、事務局まで提出していただいた。

【 講義風景 】

【 グループワーク 風景 】



【太田ワークショップ】

- ・平成14年2月17日（日）、太田市において第2回ワークショップ（参加者21名）を開催した。午前の部では、太田で活動している団体（夢工場 おおた、まちなか楽習館）などを視察し、午後の部では、太田市勤労会館において、地元で活動している団体（御城道と歩む会、NPO法人コスモス、おおたIT市民ネットワーク）からの事例報告。さらに午前の視察や事例報告を踏まえ、現実的な視点でのワークショップが行われた。

【 現地見学 夢工場 おおた 】



- ・各グループが前回提出した企画書を実現性という観点から問題点を整理し、改良を加えたうえで、新たな事業構想として取りまとめた。さらに事業構想の実現に向け、行政、商工会議所、NPOセンターなどに対する要望事項などについても取りまとめた。

#### 【 グループワーク 風景 】



それを受けて、群馬県、太田市、太田商工会議所、関東経済産業局から参加者が事業展開する際の支援メニューについて説明を行った。

- ・今回も宿題として、ワークショップで作成した事業構想にさらなる検討を加えた改定版の提出を求めた。

#### 4 . 参加者アンケートの結果と今後の進め方について

- ・第1回目の東京ワークショップでは、互いに見ず知らずの参加者たちは、初めはワークショップの手法を用いた話し合いに戸惑いを隠せなかったが、自分の故郷について話し合うことは非常に楽しそうであった。その意味では、ワークショップの初めに「故郷のここが好き・ここが嫌い」を話し合ったことで、参加者の気分をリラックスさせ、話しやすくする効果があったと言える。

また、第2回目の太田ワークショップでは、地元で活躍するNPOの話聞き、技術者たちが退職後に自分たちが培った技術を活かして、地域で生き生きと活動する姿を見て、非常に感銘を受けているようでもあった。

- ・ワークショップ参加者を対象に募集段階と東京・太田ワークショップ後にアンケート調査（3回）を実施した。その結果、「故郷で何か事業に取り組む意欲があるか」

との問いに対して、取り組む意欲が増したと回答した人が13名もいた。

しかしながら、一方では「生活のできる仕事ができるのか」などの不安をのぞかせており、受入れ側である地元の理解や受け入れ体制の整備を求めている。

- ・今回は最初の試みとして、太田市の出身者を対象に東京と太田で各1回のワークショップを行ったが、「故郷でこだわり事業」の今後の展開としては、今回のワークショップ参加者の今後のフォロー、太田市における新たな参加者を募っての事業の継続、群馬県の他都市における新規事業の展開が重要であると考えられる。

- ・なお、第2回推進検討委員会で、委員の中から大変貴重な意見が出されたので、今後の取り組みを展開する際の参考としてご紹介する。

『ワークショップに参加できなかったけど、太田から案内をもらって、潜在的に「太田っていいまちだな〜！」と思っている人がものすごくいるんですよ。参加者以外にも参加出来なかった方々のネットワーク、これがいいんです。例えば、自分がリストラにあって困っていた時に、太田からの一通の案内で勇気づけられた方がいるはずなのです。その方々からの聞けなかったニーズが、まだまだ沢山あるはずですよ。』

『参加者の方々と話をしたところ、「これで終わりにしたらもったいないね」とか、「今までは単に法事などで、親や兄弟に会うために故郷に帰っていたけれども、こだわり事業のために太田に戻って、参加者と交流したい」という話が聞けました。』